

工業部会通信

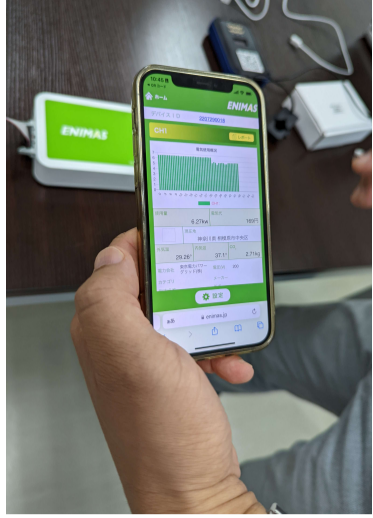
(発行) かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
 商工会館本館1階
 ※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
KANAKEI

脱炭素サポートで新会社

精密可視化デバイス開発

精密部品加工、コバヤシ精密工業(南区大野台)は、新会社・ENIMAS(エニマス、東京都町田市)を設立し、中小製造業などを対象にした脱炭素・省エネサポート事業を始めた。生産設備や空調などのエネルギー使用量・二酸化炭素(CO2)排出量を、設備ごとにリアルタイムで見える化するデバイス(ポータブル電流計)を開発。新会社を通じて普及させていく。



スマホ上で管理可能

電気料金の値上げや、サプライチェーン(供給網)での脱炭素化に対する機運が高まる中、特別なシステムを入れることなく、スマートフォン上で簡単にエネルギー使用量などの実態が把握できるのが特徴。同社によると、エネルギー使用量の見える化や

省エネに着手しようと思っても、既存のデマンドメーターは工場(施設)全体のデータを表示するため、どの設備にどの程度の電力使用量がかかっているのかが特定できない。小林昌純社長は「大手電機メーカーでも設備単位で計測するシステムを販売していますが、中小企業が導入できる価格ではありません」と説明。そこで、比較的安価に導入可能な使いやすいデバイスの開発を進めていたという。



簡単に設置できるのも特徴

と名付けた。クランプセンサー(8個)と本体、子機などのセットで構成。各設備のブレーカーにクランプセンサーを接続。それを最大8チャンネルある子機などにつなぐだけで、見える化できる。具体的には、各設備の電力使用量を計測し電気料金、CO2排出量を算出。4G回線経由でクラウド上にアップし、CSVファイルに出力する。小林社長は「それぞれの設備の使用実態を把握することで、夏や冬の電力需給ひっ迫時には、設備ごとの計画運休もできるようなりま」と話している。100ポルト電源対応。価格は28万5000円(税別)。初年度は1000台の販売を計画する。中小製造業のみならず、冷蔵庫を常時使用する食品加工業やアミューズメント施設などにも需要が見込めるという。

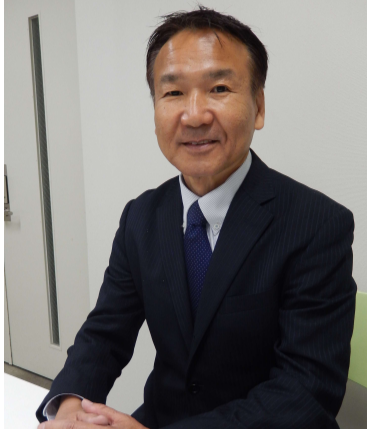
GETTとKIZUNA 共同で企業交流会

28日産業会館

工業部会は、28日の午後6時から同8時半まで市立産業会館で、GETTプロジェクトとKIZUNA

コロナ禍の影響で停滞していた会員企業同士の交流を促進することなどが狙い。

松岡康彦氏 コラム 経営者と「休暇」



今回は「経営者の休暇の使い方」についてお話しします。まず、一番やってはいけないのは「急げ者の節句の働き」です。社員が休んでいる時に忙しそくに働いても、後ろ向きの仕事をこなしてい

るだけだと見抜かれま

社員でも同じスタイルの人がいます。きっちり仕事を休んでしまっ

つて仕事をしないと思考回路が緩んでしま

異次元の体験すること

異次元体験で「やる気」も

異次元の体験すること、脳を刺激して新たなやる気を引き出します。長期休暇を有効に使う自分自身に磨きをかけ会社の成長に役立ててください。(かながわ経済新聞特別編集委員、公認心理師・松岡康彦)



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会